

第 678 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日 時 2022年 1月 8日(土) 午後 2時 00分

新型コロナウイルス感染拡大防止のため東京都地方会講話会は、来場での開催を模索しておりましたが、今年度は Live Zoom 講話会の開催とさせていただきます。何卒ご理解頂きますようお願い致します。

参加費につきましては無料となりますが、学術集会への参加単位の発行はございません。小児科領域講習の聴講証につきましては、単位申請をさせて頂き、後日オンデマンド講習としてご案内致します。詳細につきましては、ホームページや郵送にてご連絡させていただきます。

お時間の許す限り、ご参加頂きますようお願い致します。

参加方法につきましてはホームページをご参照ください。

次回以降開催予定日

2022年 2月 19日(土) (WEB 開催)

2022年 3月 12日(土) (WEB 開催)

世話人
プログラム係
慶應義塾大学小児科
古道 一樹
03 (3353) 1211
(FAX) 03 (5379) 1978

会 場 係
日本医科大学小児科
榑崎 秀彦
03 (3822) 2131
(FAX) 03 (5685) 1792

事 務 局
03 (5388) 7007
(FAX) 03 (5388) 5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 678 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:35

座長 小川 恵梨 (慶應義塾大学小児科)

1) Bow hunter syndrome により両側視床梗塞をきたした 1 例

○申 俊鎬¹⁾、下田木の実¹⁾、柿本 優¹⁾、内野 俊平¹⁾、佐藤 敦志¹⁾、宮脇 哲²⁾、
加藤 元博¹⁾ (東京大学小児科)¹⁾、(同 脳神経外科)²⁾

8 歳男児。野球のバットを振った後に意識障害を認め、当院へ救急搬送となった。頭部 MRI 検査にて両側視床梗塞を認めた。頭頸部造影 CT 検査にて右後頭骨の骨棘と環椎の間で右椎骨動脈の狭窄所見があり、Bow hunter syndrome による急性両側視床梗塞と診断した。小児における Bow hunter syndrome の報告例は少ないため、文献的考察を加え報告する。

2) けいれんで発症した脳梗塞を伴う軟膜下出血の新生児例

○渡邊浩太郎、横井 碧、平田 航、田村友美恵、岩田はる香、伊藤 一之、森丘千夏子、
水野 朋子、森尾 友宏 (東京医科歯科大学小児科)

日齢 1 男児。在胎 39 週 3 日、体重 2870g、頭位経膈分娩で出生し、仮死はなかった。日齢 1 に右上下肢の間代性けいれんをきたし、同日の頭部単純 CT で、左頭頂葉の軟膜下出血と脳梗塞とを認めた。軟膜下出血と脳梗塞とを併発する新生児例の報告は少なく、予後に関する報告もばらつきがある。既報との比較、文献的考察を交えて報告する。

3) 腸重積症を契機に診断に至った Peutz-Jeghers syndrome の 1 例

○山内英理子、高松 朋子、新井 健人、鈴木 崇、林 佳奈子、高橋 英城、森地振一郎、
小穴 信吾、西亦 繁雄、山中 岳、四柳 聡子、林 豊、稲垣 夏子、河島 尚志
(東京医科大学小児科)

9 歳男児。突然の腹痛で緊急搬送された。口唇に色素斑を認め、父が Peutz-Jeghers 症候群と診断されていた。腹部 CT で小腸の target sign を認め緊急手術となり、後に本症の診断に至った。本症の家族歴を有する児の腹痛では腸重積症を考慮し、消化管サーベイランスを家族に啓蒙することが重要と考えられた。

指定発言 沼部 博直 (東京医科大学遺伝子診療センター)

第 2 グループ 14:35—15:05

座長 岩元 典子 (国立国際医療研究センター国際感染症センター総合感染症科)

4) 新型コロナウイルス感染妊婦から出生した新生児 8 例の管理経験

○廣中 優、鳥山 泰嵩、小竹 悠子、山田 早彌、稲毛 由佳、生駒 直寛、熊澤 健介、
林 至恩、田邊 行敏、小林 正久 (東京慈恵会医科大学小児科)

新型コロナウイルスのパンデミック以降、新型コロナウイルス感染妊婦を当院では積極的に受け入れている。今回、当院での新型コロナウイルス感染妊婦や感染の疑いのある妊婦から出生する場合の児への対応と 8 例の母体陽性の児の出生後の管理経験を合わせて報告する。当院では、出生後より蘇生の部屋を分けるなどの対策を行い、全例児への垂直感染は認められなかった。当院での方法や対策などを示し、報告する。

5) 劇症型溶連菌感染症をきたした生後1か月の1例

○猪井 咲良^{1),2)}、中谷 諒²⁾、長沖 優子²⁾、稲井 郁子²⁾、長谷川大輔²⁾

(東京女子医科大学小児科)¹⁾、(聖路加国際病院小児科)²⁾

生後1か月男児。日齢9から新生児臍炎を認めていた。入院当日より発熱と下腹部～外陰部の発赤が出現したため入院した。入院2日目に血液培養から *S. pyogenes* を検出し、頻脈、意識障害、発疹を認め劇症型溶連菌感染症と診断した。生後1か月での *S. pyogenes* の感染はまれであり文献的考察を加えて報告する。

6) 口腔内に組織逸脱を認めた歯ブラシ外傷の1例

○中村紗佑里^{1),2)}、島袋 林秀²⁾、益田 博司²⁾、余谷 暢之³⁾、窪田 満⁴⁾、石黒 精¹⁾

(国立成育医療研究センター教育研修センター)¹⁾、
(同 総合診療科)²⁾、(同 緩和ケア科)³⁾、(同 総合診療部)⁴⁾

6歳男児。歯ブラシによる口腔内損傷で当院を受診した。右頬粘膜より約2cm大の有茎性白色組織の逸脱を認め、造影CTでは右咬筋損傷を認めた。抗菌薬投与を開始し、全身麻酔下で逸脱組織を切除した。病理組織学的には脂肪組織であった。歯ブラシの頬粘膜刺入による頬脂肪体とヘルニアと診断し、感染症予防についての考察も交えて報告する。

休 憩 15:05—15:10

感染症だより 15:10—15:30 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 齋藤 義弘 (医療法人社団めぐみ会自由が丘メディカルプラザ 小児科)

多屋 馨子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:30—16:40 (講演:60分+質疑応答:10分)

座長 門脇 弘子 (山王病院小児科)

小児科診療に有用な血液・腫瘍疾患の基本知識

加藤 元博 (東京大学小児科)

小児の血液・腫瘍疾患は比較的まれであり、日常の診療で遭遇する頻度は高くない。本講演では、「血液・腫瘍の専門医」ではない小児科医にとって診療に有用な基本知識をもとに、血液・腫瘍疾患を疑う状況や、その対処について「すべきこと」と「すべきではないこと」について共有する。

休 憩 16:40—16:45

第3グループ 16:45—17:15

座長 江崎 隆志 (東京都立大塚病院小児科)

7) コロナウイルス感染症流行による当センター児童精神科初診患者動向の推移

○江口 幸子、野村 健介

(島田療育センター児童精神科)

前回の第676回地方会で、2019年と2020年の4月～6月の児童精神科初診患者動向を発表したが、今回、続報として、2021年の同期間の動向を調査した。申し込み人数、初診までの待機期間、主訴、診断名を統計的に調べて、COVID-19流行前の2019年と比較した。児童精神科領域におけるCOVID-19蔓延の影響について考察する。

8) 胎児期のアルコール曝露を含む環境要因と依存症の遺伝的素因を背景とした慢性期神経性食思不振症の1例

○中村 洋生¹⁾、中村俊一郎²⁾、香取 奈穂²⁾、鴫田 夏子²⁾、高橋 孝雄²⁾
(慶應義塾大学病院卒後臨床研修センター)¹⁾、(同 小児科)²⁾

17歳女子。慢性期神経性食思不振症、強迫性障害、他者への依存で入院。母の予定外妊娠と妊娠中の飲酒・喫煙、父のアルコール依存症がある。幼児期から酒席に同伴するなど不適切な環境で養育された。胎児期アルコール曝露、不適切な養育環境などの環境要因と依存症に関する遺伝的素因が複雑に関わった本症例の病態生理について考察を加える。

9) 強い偏食に起因した歩行障害を呈した自閉スペクトラム症の1例

○宮里 良大^{1),2)}、伊藤 駿^{1),3)}、服部 美来¹⁾、林 歩実¹⁾、宇都宮真司¹⁾、小西 弘恵¹⁾、
中村 浩章¹⁾、那須野聖人¹⁾、清水 教一¹⁾
(東邦大学医療センター大橋病院小児科)¹⁾、(同 佐倉病院小児科)²⁾、(同 大森病院小児科)³⁾

ほぼ主食(ご飯とパン)のみしか食べない自閉スペクトラム症(ASD)の4歳男児。突然歩行を嫌がるようになった。独歩は可能であったが跛行を認めた。各種微量元素とビタミンの測定を行ったところ、ビタミンCの欠乏を認め壊血病と診断した。本症例のような偏食のあるASD児に歩行障害を認めたときは、壊血病を鑑別すべきと考えられた。

第4グループ 17:15—17:55

座長 小山裕太郎(東京都立小児総合医療センター)

10) 嚢胞感染を繰り返す先天性嚢胞性肺疾患の予防的術前抗菌薬の検討

○松山 茉衣¹⁾、小林 久人¹⁾、玉井 直敬²⁾、船田 桂子²⁾、肥沼 悟郎²⁾、高橋 孝雄¹⁾
(慶應義塾大学小児科)¹⁾、(国立成育医療研究センター呼吸器科)²⁾

胎児診断された無症状の先天性嚢胞性肺疾患は待機的外科切除の対象となるが、待機中に嚢胞感染を反復することも珍しくない。今回、嚢胞感染を反復したにもかかわらず、抗菌薬の予防内服により予定通りに乳児期での外科切除を行い得た2例を経験した。待機中の治療戦略について考察を加え報告する。

11) リウマチ性弁膜症の急性増悪と考えられた9歳女児

○田畑 恭輔¹⁾、若月 寿子¹⁾、佐藤 恵也¹⁾、井福真友美¹⁾、磯 武史¹⁾、重光 幸栄¹⁾、
田中 登¹⁾、原田 真菜¹⁾、松井こと子¹⁾、福永 英生¹⁾、稀代 雅彦¹⁾、中西 啓介²⁾、
川崎志保理²⁾、林 大久生³⁾、清水 俊明¹⁾
(順天堂大学小児科)¹⁾、(同 心臓血管外科)²⁾、(同 病理診断科)³⁾

9歳女児。学校検診で僧帽弁閉鎖不全(MR)を指摘されていた。遷延する感冒症状で他院入院、MR増悪と心不全のため当院転院となった。利尿薬投与で症状は軽快したが、MRが重度のため僧帽弁形成術を施行。心筋生検でAschoff小体を認めたためリウマチ性弁膜症がMRの原因と考えられた。近年ではまれとなったリウマチ性心疾患について考察する。

指定発言 芦澤 かりん(順天堂大学病理診断科)

12) 無症候性COVID-19感染後に川崎病を発症し小児多系統炎症性症候群と診断した1例

○東 みなみ、高木 俊敬、大川 恵、本多 愛子、渡邊 優、岡田 祐樹、水野 克己
(昭和大学小児科)

5歳女児。川崎病の診断で入院した。1か月前にCOVID-19の濃厚接触者になったが、無症状でPCR検査も陰性であった。入院経過中に血圧低下傾向と不穏や異常行動を認めた。COVID-19抗体が陽性であり小児多系統炎症性症候群(MIS-C)と診断した。無症状であっても濃厚接触者の川崎病はMIS-Cの発症を考慮すべきである。

指定発言 森 雅亮(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座)

【運営委員会だより】

1. 12月の運営委員会はメール審議で行った。今回の講話会もLive Zoomのみの開催となった。参加者は98名。
2. 第678回講話会のプログラム編成について承認された。
3. 第678～680回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が承認された。1・2・3月の開催はZoomで行うこととなった。
4. 事務局委託業務について、現委託先の日本小児医事出版社より契約解除の申し入れを受け、現事務局担当の佐藤貴志氏を個人事業主として後継頂くことで、承認された。
5. 幹事選挙に関して、立候補届が下限の人数にも達していないため、締め切り期日を延長し協力を仰ぎ、1月の運営委員会にて候補者一覧を報告することで、承認された。
6. 東日本小児科学会開催については、第47回(2022年)は横浜市立大学 伊藤秀一先生のもと開催準備を進めており、第48回(2023年)は日本医科大学 伊藤保彦先生にご担当頂くことで、承認された。
7. 名誉会員推薦に関しては、本年度はご推薦がございませんでした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 原則として指定発言をつけて下さい。(共同演者から指定発言は頂けません)
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先のご発表となる場合がありますのでご了承ください。
その場合、事務局よりご連絡します。

【座長・演者の先生方へのお願い】

- 講話会当日、ログインした際に、チャット機能を用いて事務局および進行係へログインした事をお知らせ下さい。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します(原稿はワード入力にてe-mailにて事務局へ、ご発表後月末までにお送り下さい)。
- 参加した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後(または適切な時期)にTake Home Message(この発表から学ぶこと)を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所(プログラム送付先)等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp/FAX: 03(5388)5193

【事務局よりご連絡】

- 1月8日の東京都地方会講話会はLive Zoom 講話会として開催させて頂きます。来場での開催はございませんので、ご注意ください。
参加費は無料となりますが、学術集会の参加単位(iv-B貼付用)の発行はございませんのでご了承ください。小児科領域講習の聴講証(iii貼付用)につきましては、オンデマンド配信で単位が取得できるように申請させて頂きます。単位が付与されましたら、ホームページでご案内させて頂きます。
ご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム(会員専用)にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となりますが、ユーザー名:tokyoとPWD:jps-tが必要となります。ホームページの『開催のお知らせ』に参加URLを掲載致します。

Presentation について

発表者の PC にて Zoom の画面共有で発表して頂きます。スムーズな会の進行のため、なるべく高速で安定しているネット回線環境（可能であれば有線 LAN）と、安定している最新版 Zoom のご用意をお願い致します。発表当日以前に事務局で接続テストの時間を設けますので、必ず接続確認と動作確認を行うよう、よろしくお願い致します。接続テストの具体的な日程は座長・発表者に事務局よりご連絡致します。また、発表当日は動作が不安定にならないように、バックグラウンドで不要なソフトを動かさないようご協力よろしくお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。